

まちづくり交付金 事後評価シート  
今北地区

平成20年4月

兵庫県尼崎市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	尼崎市	地区名	今北地区
計画期間	平成17年度～平成19年度	まちづくり交付金交付期間	平成17年度～平成19年度		
モニタリング実施時期	—	事後評価実施時期	平成19年4月～平成19年12月	フォローアップ実施時期	平成20年4月

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	
	当初計画から変更した事業 (変更した内容)	・公営住宅等整備事業(設計変更による事業費増)・地域生活基盤施設事業(平成18年度 平成19年度)・住宅等整備関連事業(緑道整備追加) 公園整備事業(設計変更による事業費増)・花いっぱい事業(五反田公園 今北三十六住宅)・駐車場関連事業(事業の削除)
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	・地域生活基盤施設事業:事業年度の変更(目標・数値指標への影響なし) ・住宅等整備関連事業:緑道整備の追加、入札後の増による事業費増(目標・数値指標への影響なし) ・花いっぱい事業:より効果的な所で事業を行うための変更(目標・数値指標への影響なし) ・駐車場関連事業:採択後、交付対象外事業に取り扱い変更となったため(目標・数値指標への影響なし)

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
		単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	公園の利用者数	人						公園等が整備されことにより、清掃活動、地区交流活動(盆踊り、体育活動など)を筆頭に日常住民が集う核となっており、地区コミュニティ形成の足がかりとして機能している。
	広場等の利用者数	人						
指標2	環境改善活動へのボランティアの参加者数	人						ワークショップ等住民と計画段階から協議しながら進めた結果、地区内交流を含め、まちづくりへの意識高揚を図ることができた。

3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
		単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
その他の数値指標1								
その他の数値指標2								
その他の数値指標3								

4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	地区内の住民間の交流及び地区住民と行政との交流が増進した。
-------------------------	-------------------------------

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
			予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	
モニタリング						
	住民参加プロセス	地区の魅力を高める活動の一環として、花いっぱい事業への参加を呼びかけ、まちづくりへの意識高揚を図り、地域活性化を支援する。	予定どおり実施できた			今後は、当該事業を機会に地域住民が主体となった維持活動を側面支援していきたい。
			予定していなかったが実施した			
予定したが実施しなかった・できなかった						
持続的なまちづくり		予定どおり構築できた				
		予定していなかったが構築した				
		予定したが構築しなかった・できなかった				

## 様式2 - 2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

今北地区(兵庫県尼崎市) まちづくり交付金の成果概要					
まちづくりの目標	地域の自然を活かし、個性豊かで賑わいのあるまちなかの創造	まちづくり交付金の代表的成果	公園、広場等の利用者数(人/日)	( ) 30 (16年度)	40 (19年度)
			環境改善活動へのボランティアの参加者数(人)	( ) 0 (16年度)	30 (19年度)

**基幹事業**  
今北三十六住宅外壁改修(5棟130戸)  
**提案事業**  
今北三十六住宅防水塗装改修(5棟130戸)



**提案事業**  
花いっぱい事業(今北三十六住宅)



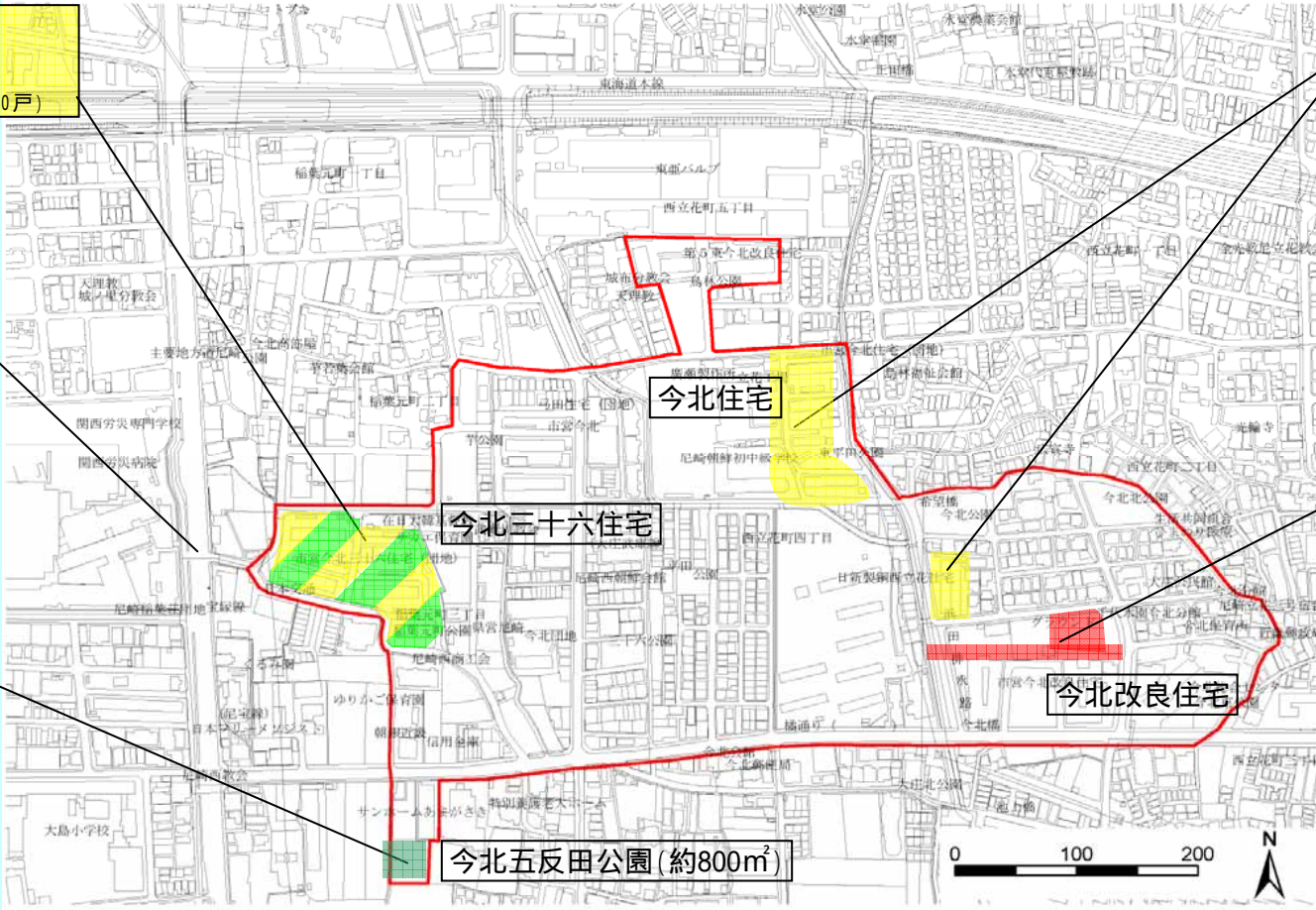
**基幹事業**  
今北五反田公園新設(800m<sup>2</sup>)



**基幹事業**  
今北住宅外壁改修(5棟140戸)  
**提案事業**  
今北住宅防水塗装改修(5棟140戸)



**基幹事業**  
今北改良住宅広場整備  
**提案事業**  
今北改良住宅緑道整備  
管理事務室撤去



今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<b>適正な土地利用の誘導</b> 定住化を促進するために良好な住宅地としての建物用途の混在防止や良住宅を誘導するため、地域住民の主体的なまちづくり活動を側面支援することにより、適正な土地利用の誘導を図る。
	<b>自然的空間の活用</b> 生産緑地、水路などによる自然環境豊かな地区であり、これらを活かした高アメニティの地域づくりのため、地域住民が主体となった維持活動を側面支援することにより、良好な居住環境の形成を図る。